

ポイント！

- 海洋環境の変化に伴い**貝毒の発生が広域化・長期化**し、出荷自粛を余儀なくされることで**貝類生産者に大きな影響**。
- また、これまで毒化していなかった貝類が新たに毒化するなど、**貝毒の蓄積に関する知見の充実が必要**。
- このため、**貝毒の低減など安全性の向上に資する技術の開発や検証**を行う必要。

現状・課題

・近年、海洋環境の変化により**麻痺性・下痢性貝毒の発生が広域化・長期化**し、出荷自粛を余儀なくされる状況が拡大し、貝類生産者にとっては切実な問題。このため、従来の貝毒モニタリングによるリスク管理に加え、**貝毒の原因となるプランクトンの発生を抑制するなど根本的な対策**が求められている。

・また、貝毒発生の広域化等に伴い、**毒化する貝の種類が増えている**ことや、麻痺性貝毒により長期に高毒化されたホタテガイの減毒期において、（従来、局在的に蓄積するとされていた）**中腸腺以外の部位に貝毒が移行、強毒化**するといった事象があり、**加工出荷を行うにあたって必要となる貝毒の部位別蓄積に係る知見の充実が必要**。

必要な研究

- ① **貝毒原因プランクトンの発生抑制に係る研究及び手法の確立**
現場実装が容易で導入コストの安価な**麻痺性貝毒の原因プランクトンの発生抑制手法**について、実際の海洋環境を想定した**安全性、有効性の検証**を行う。
- ② **各種貝類に係る貝毒の部位別蓄積等、動態の分析**
麻痺性及び下痢性貝毒の広域化等に伴い、近年、新たに毒化するようになった貝類や、従来と異なる部位での強毒化が問題となっている種について、生体内の**部位別での貝毒の蓄積等動態特性について解明**する。

研究成果の活用

- ・貝毒原因プランクトンの発生を低減する技術を確立した場合は、**現場実装を想定した手法の手順や管理に関して新たなガイドラインを策定**。
- ・貝毒の**部位別蓄積等に関する新たな知見**について「生産海域における貝毒の監視及び管理措置について」（農林水産省消費・安全局長通知）等**関連通知に反映**。

